

9 優秀な種雄牛が続出！！（2005年度種雄牛現場後代検定成績）

ねらいと成果

毎年若い種雄牛7頭についてその産子各々16頭を検定調査牛とし、その枝肉成績から育種価を算出して種雄牛の遺伝的な能力を評価する現場後代検定を実施している。

2005年度は肉質はもとより肉量も期待でき、生産農家に喜ばれる優秀な種雄牛が続出した。現場後代検定成績をもとに算出された育種価から、福広土井、光菊波、菊宮土井、照豊土井は優秀な能力を持っていることがわかった。2006年度から基幹種雄牛として県下一円に精液が配布され、優秀な産肉能力をもつ産子の誕生が期待される。

内容

2005年度は福広土井、福己土井、茂美波、光菊波、菊宮土井、照豊土井の検定が終了し、福朝土井の検定が概ね終了段階にきている。各種雄牛の検定牛枝肉成績を表に示した。福広土井は枝肉重量が410kg、ロース芯面積が54cm²で最も大きく、脂肪交雑も平均6.1と最高レベルであった。光菊波は枝肉重量、ロース芯面積は小さいが、皮下脂肪が薄く脂肪交雑も5.5と比較的高かった。菊宮土井はロース芯面積が55cm²、バラの厚さが7.2cmと大きく、脂肪交雑が5.9でトップレベルである。その他の種雄牛の検定成績では特筆すべき点が見られなかった。これらの枝肉成績をもとに育種価を算出し、枝肉重量と脂肪交雑について図に示した。福広土井は肉量肉質ともに優れ、ロース芯面積とバラの厚さでは異母兄弟である福芳土井よりも優っていた。また菊宮土井は脂

肪交雑が歴代の種雄牛の中でも最高値を誇り、肉質面ではズバ抜けた能力を持つことがわかった。照菊波の息牛である光菊波は枝肉重量は小さいものの歴代の熊波系種雄牛にあっては脂肪交雑で高い評価が得られた。また照豊土井は一般出荷の枝肉成績も取り込んだ育種価評価結果では脂肪交雑が極めて高い評価が得られた。

今後の方針

特に福広土井、菊宮土井は注目度が高く、授精頭数が多くなることが見込まれる。交配にあたっては近親交配を避けて繁殖牛の能力を補える種雄牛を交配するように指導することが重要である。牛肉の評価は脂肪交雑だけでなく「食べて美味しい肉」が求められているので、今後は美味しさに優れた種雄牛づくりに着手する予定である。

野田昌伸（北部農技・畜産部）
（問い合わせ先 電話：079 - 674 - 1230）

表 2005年度現場後代検定枝肉成績の概要(平均値)

種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	脂肪交雑
福広土井	410kg	54cm ²	6.5cm	2.4cm	6.1
福己土井	343	46	6.4	2.4	4.1
茂美波	371	48	6.4	2.3	4.6
光菊波	368	45	6.7	2.1	5.5
菊宮土井	392	55	7.2	2.2	5.9
照豊土井	371	47	6.6	2.3	5.0
福朝土井(中間)	349	48	6.6	2.3	5.0

